

天文学とプラネタリウム

第81回



www.tenpla.net



高梨直紘 (東京大学)
平松正顕 (台湾 中央研究院)

今月のお題

サンチアゴプラネタリウム訪問記



昨年10月号に続いて海外プラネ訪問記第2段、今回は南米チリの首都サンチアゴにある大学のプラネタリウムです。

ATP、羽田空港でも販売中

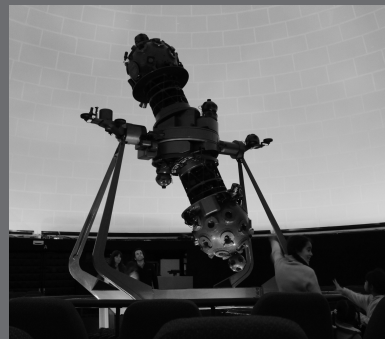
天文学の研究をしていると、観測や研究会出席のため海外に渡航することがよくあります。現在チリに建設中の電波望遠鏡 ALMA での試験観測のため、筆者の一人平松は昨年秋にチリを訪れました。南半球、高山、砂漠。星を見るにはうってつけの場所で、世界の天文学者がこの地に天文台を建設しているのも頷けます。

そんな観測天文学のメッカであるチリの首都サンチアゴに、サンチアゴ・デ・チリ大学附属プラネタリウム (1985 年開館、ドーム径 23m) があります。立地は街のど真ん中、鉄道中央駅の目の前。プラネタリウムの入った建物は頭を切り取った円錐型で目立ちます。ただドーム状ではないので、それまで何度かその前の通りを歩いていたのにウェブサイトを見るまでプラネタリウムだと気づきませんでした。

ある日曜日にそこを訪れてみると、子供連れやカップルなどがちらほら。ごちんまりとした展示室には、チリにある欧州南天天文台の VLT 望遠鏡や国際宇宙ステーションのジオラマがあ

りました。また世界天文年向けに作られたらしい「光とは何か」を解説する展示物もあり、赤外線や紫外線の違いや偏光板、光圧などを説明する器具とパネルが並んでいます。説明無しではちょっとわかりにくい印象でしたが、大学生アルバイトかボランティアでしょうか、解説員が子供たちに優しく (スペイン語わからないのですが口調的には) 解説をしていました。

そしてプラネタリウム。3 種類の番組が投影されていたようですが、光と色をテーマにした番組を見ました。ツァイス製の伝統的な 2 球式プラネタリウムを使った星空の紹介は南十字などだけでごく簡単に済まされ、それ以外は派手な動画や静止画を用いてニュートンやアインシュタインの足跡をたどりつつ光と色について解説する構成になっていました。ふーんと思いつつながら見ていたのですが、エンディングが近づくとだんだんと音楽のテンポと音量が上がっていき、ドーム内にフラッシュをたくような演出も。画像投影中には下に格納されていたプラネタリウム投影機が音に合わせてせり上がってきて、もうこれでもか! というぐらいにまわるまわる。



サンチアゴ大学の Zeiss VI 型プラネタリウム。赤や青の照明の中で激しく踊るラテンなヤツ。

それも東から西とか関係なく、日周運動+水平回転+緯度変化も入れてグイングインと。プラネタリウムというよりは星を映すひとつの舞台装置、という扱いでした。日本ではあまり見られない演出ですが、欧米ではこういう派手な演出をするところも珍しくないとのこと。こういう一味違ったプラネタリウム番組を見られるのも、海外プラネめぐりの面白いところですよ。